



## 留学生の受け入れと派遣の再開

副学長・インターナショナルオフィス長 原 直行

コロナはまだ終息しませんが、留学生の受け入れと本学学生の海外派遣は少しずつ再開しています。今年度前期では4月～9月で留学生の受け入れ147人、海外派遣37人と回復してきました。後期ではさらに増えていくことが予想されます。

さめきプログラムで2022年10月に来日した7人の留学生はタイ2人、台湾2人、ブラジル3人の計7人で、それぞれとても個性的であり、社交的です。彼らと日本人学生との交流は双方にとって学びの多いものになるし、互いに刺激を受けるだろうと思い、私の経済学部のゼミに来てもらい、隔週でグループワークをしています。

観光と地域活性化を学ぶゼミであるため、香川県と県外の観光地について、留学生のそれぞれの国・地域の若者が行きたくなるような場所や体験、情報発信について調べ、実際に現地を訪れます。グループワークでは日本語と英語のチャンポンで話し合いをしていました。そして11月には香川県内の観光地(屋島、金刀比羅宮、丸亀城・四国水族館)をグループごとに訪れました。その後ゼミで報告会を開きました。プレゼン資料は英語で作成し、英語で発表しました。今回は3チームともゼミ生(日本人学生)が発表でした。ゼミ生は慣れない英語での発表に悪戦苦闘していましたが、全員努力の成果がみられました。今度は県外の観光地に行くべく、また調べることから始めます。

ゼミでは私も英語が多めの日本語とのチャンポンで話していますが、このような日本人学生と留学生の地域観光振興に関わる実践的な授業を近い将来、新しく作れないかと考えています。最後の報告会には自治体の観光振興担当者や観光協会等、関係者にも来ていただいて、インバウンド促進につながる提言ができれば理想的だと思います。実現できるように頑張ります!



日本人学生と留学生の香川県内観光の様子

### What

10:00 at University  
11:00 Konpira  
12:00 Udon  
12:30 start climbing  
13:00 arrive at the top  
13:30 start going down  
↓ 14:00 Oiri softcream  
14:30 return to start point  
15:30 at University



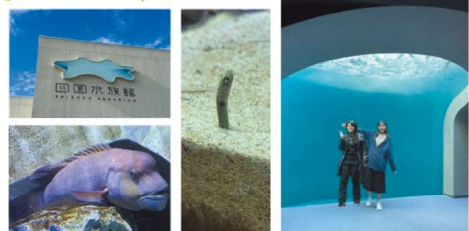
### City tour plan:

11/26 (Saturday)  
Starting hour: 11:00 a.m.

1. Marugame Castle – from 11 a.m. to 12 p.m.
2. Lunch at Itazura Tamago – from 12 p.m. to 1 p.m.
3. Shikoku Aquarium – from 1:15 p.m. to 4 p.m.
4. Utazu Central Park
5. Aonoyama Observation Deck



### 3. Shikoku Aquarium



香川県内観光のプレゼン資料

## <国際交流活性化の推進>

### グローバル・インスピレーション・イニシアティブ

2022年7月8日(金)に、インターナショナルオフィス主催セミナー「グローバル・インスピレーション・イニシアティブ」を経済学部講義「地域活性化論」とのコラボ企画としてハイブリッド形式で開催し、本学の学生・教職員約90名の参加がありました。

最初に、「本学の国際交流に関する情報提供」として、原インターナショナルオフィス長および地域・産官学連携戦略室 植村特命准教授から、本学の渡航方針の現状やグローバル・カフェクラス、イベント等の紹介がありました。

続いて、「グローバルに活躍されている方の講演」では、小豆島町地域おこし協力隊 喰代伸之 氏から、「グローバルに生きることは難しいことじゃない!」というテーマで、グローバルに生きるとはどういうことか、海外に目を向けることのメリット、ご本人の学生時代の留学経験、国家公務員時代の仕事、現在の小豆島町地域おこし協力隊としての活動や小豆島での今後について等、グローバル経験という観点からご講演いただきました。

参加学生からは、「グローバルに生きる・海外と繋がることは、言語や金銭面でハードルが高いことであると感じていたが、今回、国外に出て行かなくても日本国内で外国人と関わりを持てばよいことを知ることができたことは新たな発見であった」「海外に行きたくなった。いろいろな場所・人・文化に触れ、自分の世界を広げたいと思った」といった感想がありました。



### グローバル・カフェのWorkshop及びイベント

#### ○グローバル・カフェ 2022年度前期授業

Time	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
10:30-11:30		留学相談 Skill-up English		Business English	English Discussion
12:10-12:50	Staff English(Online) Destination:English	Model United Nations	Basic English	Model United Nations	IELTS French
13:10-14:10	Tutor Time Discussing Current Events and World News	Tutor Time	Reading Success	Tutor Time	Tutor Time
14:50-15:50			Tutor Time International Pop Culture Chinese		
16:30-17:30	Let's talk				
18:00-19:00	Global Studies	Staff English(Face-to-face)		Spanish	

2022年4月15日(金)から7月22日(金)まで、一般クラス計15クラスを開講し、計100名(学外者を含む)の登録がありました。2022年度は学生が授業への出席を継続できるように第1クォーターと第2クォーターに授業期間を分け、中間試験勉強に集中できるように3週間の休講期間を設けるなどして開講期間を工夫しました。

また、昨年度からの継続で、Model United Nationsクラスも開講し、7月13日(水)に第2回ミニ模擬国連を開催しました。



## ○TOEIC Speaking & Writing テスト説明会

7月4日(月)にTOEICを実施しているIIBC(一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)による説明会を実施しました。教職員を含む30名が出席しました。

## ○グローバル・カフェ 2022年度前期イベント

### 1) Focus on Muslim Faithイベント(4月27日[水])

セネガルおよびバングラデシュ出身のイスラム教徒の留学生2名とのやりとりを通して、ムスリム(イスラム教徒)についての理解を深めるインタビュー形式のイベントをハイブリッドで開催しました。合計で20名が参加しました。

イベント内ではイスラム教の「5つの柱」についての説明があり、ラマダンの習慣やムスリムの人々が日々気をつけていることなどについて話し合いました。

### 2) Book-Look(5月15日[火])

好きな小説、漫画、雑誌などを気軽に紹介し合うBook-Lookをハイブリッド形式で開催し、留学生3名、日本人学生3名、教職員7名の計13名が参加しました。勉強本、漫画、小説などが紹介されました。

### 3) 韓国×日本 Roundtable Discussion(5月26日[木])

韓国からの留学生を囲み対面で、韓国と日本の文化の相違点についてディスカッション形式で話し合うイベントを開催しました。

学生20名、留学生9名、教職員6名の計35名が参加し、韓国と日本のパーソナリティの違い、世代間でのK-POPの受け入れ方や人気のファッションなどが話題に挙がりました。



### 4) Focus on Brazil and Mexicoイベント(6月9日[木])

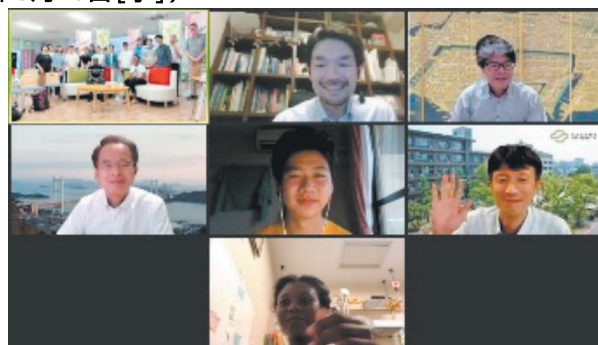
日系の留学生3名(ブラジル出身2名・メキシコ出身1名)とのやりとりを通して、それぞれの国の文化についての理解を深めるインタビュー形式のイベントを行いました。学生25名、教職員11名、学外者2名の計38名(うちオンラインは10名)が参加しました。

ブラジル移植民史のスペシャリストとして、国際日本文化研究センターの根川幸男先生にオンラインで「ブラジルはなぜ世界最大の日系社会(200万人)なのか」について講義いただきました。メインセッションでは、「自国の文化にあって日本にないものは何か」「自分のアイデンティティは何か」や「日本とブラジル・メキシコで似ているお祭りは何か」などに3人が答えていきました。

### 5) Focus on Burundi and Rwandaイベント(2022年6月29日[水])

ブルンジとルワンダからの留学生とのやりとりを通して、それぞれの国の文化についての理解を深めるインタビュー形式のイベントを行いました。学生25名、教職員10名、学外者1名の計36名(うちオンラインは11名)が参加しました。

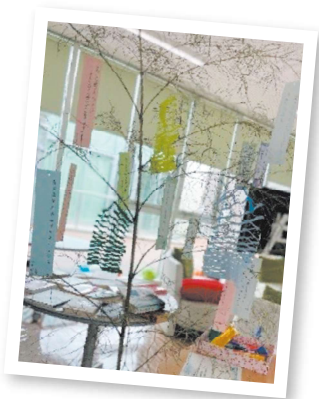
イベント冒頭では、ルワンダに駐在経験があり、かつブルンジを何度も訪問されたことがあるJICA(国際協力機構)ガバナンス平和構築部平和構築室の室谷



龍太郎氏からそれぞれの国の概要や現地での経験などについて話していただきました。メインセッションでは、「ブルンジでの結婚式」と「ルワンダでの赤ちゃんの名づけ方」をトピックとして取り上げました。

#### 6) セタウィーク(2022年7月1日[金]～7月7日[木])

グローバル・カフェでは2年ぶりにセタを開催しました。グローバル・カフェを利用している学生たちが、日本語・英語・韓国語・中国語など様々な言語で短冊に願い事を書きました。



#### ○第2回ミニ模擬国連

7月13日(水)に「SDGs4:質の高い教育をみんなに」をテーマとし、第2回ミニ模擬国連を開催しました。12名(日本人学生6名、留学生6名)の参加者のうち、2名が事務総長および議長として司会進行と運営を担いました。他10名の学生は、インドネシア、エジプト、カナダ、韓国、チリ、ナイジェリア、日本、パキスタン、マレーシア、ロシアの代表者となり、自国(担当した国)の政策や歴史、外交関係などに照らし合わせながら政策の提案や交渉などを、実際の国連の会議に準じて実施しました。



#### ○学生主催イベント



8月4日(木)に学生主催の「瀬戸内海の食材を使ったメニューを一緒に考えよう」を開催しました。当イベントは香川大学大学院地域マネジメント研究科1年生の久米佑輔さんが代表を務めている学生団体koi-koiサークルが主体となり開催しました。

日本人学生7名、留学生2名、教職員12名、学外者1名(うちオンラインは5名)の計23名が参加しました。イベントの冒頭で

は、地域マネジメント研究科の特命講師である西村 美樹先生より、瀬戸内の食材を使った料理「瀬戸内海食」の説明がありました。

「瀬戸内海食」の説明に引き続いて、参加者は2チームに分かれ、瀬戸内の食材を活用した新しいベーグルメニューの提案についてグループワークを行いました。

#### ○留学相談

日本人学生を対象に、留学相談を4月から開始しました。学生の希望に合わせて相談時間を設定し、対面もしくはオンラインで実施しました。合計29名の学生から申込みがあり、計28回実施しました。



## 国際交流・SDGs目標14における取り組み

2020年から本取り組みを開始して、これまで合計14回のイベントを企画・実施してきました。実施の形態は様々です。国際交流関連の団体や海洋ごみ清掃を中心に活動をするNPOとの活動、授業でのフィールドワークなどが挙げられます。今回、2022年11月27日(日)に高松漁港周辺で実施したクリーンアップイベントを紹介します。

参加者28名のうち、学生は9名、近所の自治会・漁業組合から10名のほか、中央市場と香川県環境管理課や本学のスタッフが参加しました。回収したごみのうちもっとも目立った海洋ごみは、タバコ関係のもの(841点)で、その他は食品の包装・袋(276点)や飲料缶・ペットボトル(88点)でした。クリーンアップの後、本学のグローバル・カフェからチェンマイ大学、国立嘉義大学、ブルネイダルサラーム大学とオンラインで、各地でのクリーンアップについて報告や意見交換を行いました。



## <外国人留学生対象行事>

### さぬきプログラム(第17期)の実施

2022年度後期さぬきプログラムの実施に際し、前期とは異なり、留学生が入国できることはほぼ確定していました。したがって、ほぼコロナ禍以前に近い形の受け入れ体制を取ることができました。学生の内訳は、私費留学生在が台湾(国立嘉義大学)から2名、タイ(メチョー大学)から1名、国費留学生在がタイから1名(日本語・日本文化研修留学生在、大学推薦)、ブラジルから3名(同、大使館推薦日系人枠)です。中には体調の問題で少し渡日が遅れた学生もいましたが、その後合流しました。全員共通の科目のほか、個々の日本語力に応じた科目を受講し、各種活動にも参加しています。今後はさらに、コロナ禍以前のように多様な学生を受け入れられることを祈っています。



第17期学生たち

## 2022年度前期さめきプログラムおよび日本語研修コース修了式



2020年に始まったコロナ禍以降、初の受け入れとなった「さめきプログラム」第16期の学生5名(タイ2名、台湾3名)と、2021年度後期に渡日・入学した日本語・日本文化研修留学生4名(韓国1名、ブラジル2名、メキシコ1名)の計9名が、それぞれ半年と1年の課程を終え、2022年8月3日(水)に修了式を迎えました。恒例により全員が日本語で修了スピーチを行い、修了証書を授与されました。

コロナ禍により入国の見通しが立ちにくく、入国後も各種制約はありましたが、学業の他、課外活動に参加したり、茶道・書道等の伝統文化を体験したり、日系人は親戚に会いに行ったりと、有意義な留学生活になったものと思います。一緒に学んだ記念として、皆で「さめきプログラムマガジン」も作成しました。さまざまな学びや経験を、絆と共に持ち帰り、今後活かしてもらえたら嬉しいです。

## <リクルーティング>

### 進学説明会

日程	曜日	時間	開催都市	場所
6月1日	水	10:00-16:00	大阪	梅田スカイビル アウラホール
6月3日	木	13:15-15:00	岡山	オンライン
6月18日	土	15:00-17:30	岡山	CIVI研修センター新大阪東
9月15日	木	11:00-16:00	大阪	グランキューブ大阪

インターナショナルオフィスは、留学生のリクルーティング活動および広報活動として、主に日本語学校の在籍生を対象とした進学説明会に参加しています。今年度はJASSO主催の説明会には参加できませんでしたが、民間主催の説明会には、オンラインに加えて対面で参加することができました。昨年はずべてオンラインで参加しましたので、この点は大きな違いです。ただし、本学側の日程的な都合や、コロナウイルス感染症の影響により日本語学校に在籍する留学生が以前ほど多くないことにより、参加回数は減少しています。最近、本学に正規生として入学する留学生の傾向が少し変わりつつありますが、今後も意欲のある多数の留学生が本学に興味を持ってくれることを期待しています。

## <日本人留学生増加のための取り組み>

### 日本学生支援機構(JASSO)協定派遣プログラム(通称「がいな」)について

日本学生支援機構(JASSO)2022年度の海外留学支援制度に採択された「SDGsと紐づけた学習活動の実践によるグローバルコンピテンシーをもつ『がいな』人材育成プログラム」による協定校派遣を2022年8月から開始しました。派遣先はブルネイのブルネイ・ダルサラーム大学(2名)、アメリカ合衆国のコロラド州立大学(1名)、フランスのアレス鉱山大学(2名)、台湾の国立政治大学(4名)です。

派遣学生はグローバル・カフェで実施した事前研修を7月または8月に受講しました。研修では「自分とつながる・課題とつながる」をテーマに、留学計画書にまとめた課題とSDGsとの関連をより明確にし、留学計画をブラッシュアップしました。

昨年度はコロナ禍により派遣が中止となっていたため、待ちに待った派遣再開です。留学期間は4か月から11か月と異なりますが、派遣学生がそれぞれに留学を通してどのように学びを深めて帰国するのか楽しみです。





事前研修の様子。自己紹介(ストーリー・テリング)(左)と留学計画のブラッシュアップ(右)。

## トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム 地域人材コース 第14期生 事前オリエンテーション&壮行イベント

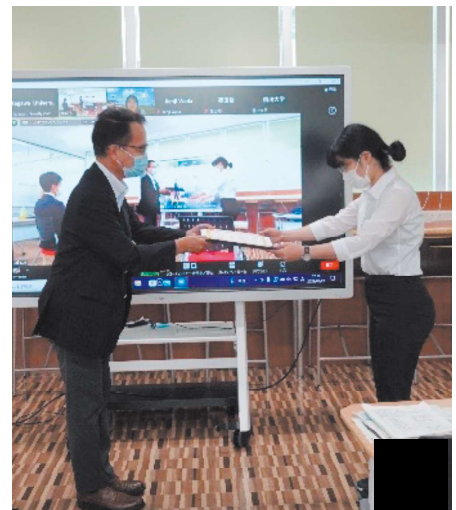
「香川地域活性化グローバル人材育成プログラム」の最後の派遣となった第14期は、コロナ禍に翻弄されました。

数度の派遣延期のあげく、派遣予定者2名のうち1名のみの派遣実現となりましたが、8月20日に実施した事前オリエンテーションには2名そろって参加し、留学計画のブラッシュアップのためのプレゼンテーションやディスカッションを行いました。また、支援企業による地域ビジネスの動向についての講義や先輩トビタテ生のオンライン参加もあり、ディスカッションでは地域の魅力について議論を深めました。

最後は壮行イベントとして、派遣生による決意表明と、香川県の魅力発信を担うStudent Ambassador of Kagawa委嘱を行いました。



香川地域の魅力に係るディスカッション



Student Ambassador of Kagawa委嘱



# プトラ・マレーシア大学の学生と共に学ぶマレーシア・多文化体験プログラム

全学部の1、2年生を対象に、海外で多様な文化・社会に触れ、フィールドワークを通して多様性の理解を促進することを目的に、2022年度春期超短期留学入門プログラムを実施することになりました。このプログラムは本学の学術交流協定校であるプトラ・マレーシア大学 (UPM) の全面的な協力のもと、海外渡航が初心者でも参加しやすい内容となっています。参加学生はUPMの学生寮に宿泊し、同大学の学生 (バディ) と共に活動します。授業のほか、同大学の演習林やクアラルンプール市内でのフィールドワークなどを通じ、体験的に学ぶ内容となっています。またプログラムの最後には現地でそれぞれの課題に対する気づきや発見を英語で発表する予定です。募集の結果、定員を上回る応募がありました。渡航前に実施する3回の事前研修を経て、2023年3月に約1週間現地に滞在する予定です。

UPM 全学部生対象  
2022年度春期 超短期留学入門プログラム  
プトラ・マレーシア大学の学生と共に学ぶ  
**マレーシア・多文化体験プログラム**  
参加者募集!

海外渡航が初めての方でも参加しやすいプログラムです。  
事前に定めたテーマに沿って海外で多様な文化・社会体験を行い、課題の発見と気づきを得るプログラムです。

派遣先	マレーシア (主にクアラルンプール市内) ※学費教職員が引率します	応募締切	2022年11月25日 (金) 17:00 (厳守)
期間	2023年3月5日(日) ~ 3月12日(日)	プログラム内容・概要	フィールドワークを通じて学ぶ! ◆富田大学学術交流協定校(プトラ・マレーシア大学 [UPM]) 訪問 ◆文化・多様性を学ぶ各種体験 ◆JICAマレーシア事務所訪問 等
費用負担	23万円程度 ※航空運賃、渡航費、食費、現地交通費、現地入居料等を含まず ※参加者負担の費用は、授業後の参加費として別途募集要項に記載されています	充実したサポート	◆期間中本学の教職員が引率・助言します ◆現地協定校学生のバディがサポートします ◆留学中の様子を留学後のフォローがあります ◆詳細は以下URLの募集要項をご覧ください https://www.kagawa-u.ac.jp/kuio/study_abroad/23825/29125/
対象	全学部の主に学部1、2年生 15名程度 ※募集定員は超過しません ※選考方式・選考内容に興味がある方	参加申し込み	以下のURLへ、QRコードからできます https://forms.gle/De5c3nD6U3wv87TA

問合せ先 インターナショナルオフィス 滝川祐子  
E-mail : takigawa.yuko@kagawa-u.ac.jp

## ちきゅう見聞録

コロナの影響を受けて延期となっていた留学が、徐々に再開されています。2022年8月からブルネイ・ダルサラーム大学に派遣された学生2名の現地報告、ぜひご覧ください!  
[https://www.kagawa-u.ac.jp/kuio/study\\_abroad/publication-2/](https://www.kagawa-u.ac.jp/kuio/study_abroad/publication-2/)

発行:インターナショナルオフィス 2022年10月  
**ちきゅう見聞録**  
~ 香大生 around the world ~  
木谷修太郎 さんは 見た!

発行:インターナショナルオフィス 2022年11月  
**ちきゅう見聞録**  
~ 香大生 around the world ~  
塩崎達也 さんは 見た!

**Vol.39 ブルネイ・ダルサラーム**  
ブルネイは赤道直下の熱帯雨林気候で、郊外には一面に広がっています。夜は毎晩のようにスコールが降り、部屋にいても聞こえる音が響き渡ります。  
ブルネイ以外の森  
ブルネイは赤道直下の熱帯雨林気候で、郊外には一面に広がっています。夜は毎晩のようにスコールが降り、部屋にいても聞こえる音が響き渡ります。  
○法学部3年  
○2022年8月から12月までEXPLOREプログラムでブルネイ・ダルサラーム大学 (UBD) に留学中

**Vol.40 ブルネイ・ダルサラーム**  
チトマーケット ブルネイでは毎日夕方から夜にかけて、チトマーケットが開かれています。一番の旨味はコスバシゴレン! Heat Goreng (ナシをBNDI (日本円で約100円) で購入することが出来ます。その他にも、骨付きチキンやタコなど、食べ物が50円以下で食べることが出来、現地の味を堪能したい方にはお勧めです。  
○経済学部4年生  
○2022年8月から12月までEXPLOREプログラムでブルネイ・ダルサラーム大学 (UBD) に留学中  
Lecture + Tutorial UBDでは110分間のレクチャーの他に90分間のチュートリアルがあります。レクチャーは40人ほどで講義を進め、のグループで行います。チュートリアルは参加人数が10人ほどされるため、気を抜けません。また、定期的な参加員会が実施にも加味から出席が求められることもあるため、積極的に発言して、お友達と交流は効果よく学習が出来ると思います。

ブルネイ・ダルサラーム 国  
【首都】バンダル・スリ・ブガワン  
【面積】5765km<sup>2</sup> (三重県とほぼ同じ)  
【人口】約46万人 (2019年)  
【言語】マレー語 (公用語)  
英語は広範囲  
【宗教】イスラム教 (81%)  
仏教、キリスト教 (各7%)

留学生用の寮「The Core」全部で6棟あり、カメラで撮影して、毎日よい写真を撮らなければならない。半分は個室、半分は「Common Room」は、誰でも使える共同スペースです。

日本の留学生をおもてなし  
QOP 海外留学生プログラムを運営しているグループの一員として、日本の留学生をおもてなししました。毎日のようにモスクなどの様々な場所を後らともたに訪れることができ、いい経験になりました。さらに、夕方ごろに寮に帰ってからはみんなでUNOや8000からブルネイ版大富豪をするのが非常に楽しかったです。一緒にいた期間は一月に満たない程度でしたが、ブルネイ留学の中で最も楽しかった期間でした!

国では少ない、チーム内バスケット部に所属しています。ブルネイ自体があまり大規模なバスケット部は10歳以前に始まります。チーム内はみんなが練習を出しています。気温がなくても高いので、バスケット部はみんなが練習を出しています。気温がなくても高いので、バスケット部はみんなが練習を出しています。

UBDに設置されているワールド sport complexは暑から1.5kmほど離れた位置にあります。ブルネイは一年を通して気温が30度近くあるため、毎日プールで泳いでいても暑くない。しかも設置されているのは50mプールで、水質も素晴らしいです。学校の授業が終わった後には、プールで泳いでいたため、かなり日焼けしました。



## <他機関との連携活動>

### JICA研修員受入事業の実施

独立行政法人国際協力機構（JICA）事業は、開発途上国から人材を日本に招き、それぞれの国が必要とする知識や技術に関する研修を専門的な知識を有する機関にJICAが依頼し実施する事業です。

JICAからの委託を受け、2022年度上期は下記のとおり短期研修2コースと長期研修（留学生）1名の受入れが実施されました。

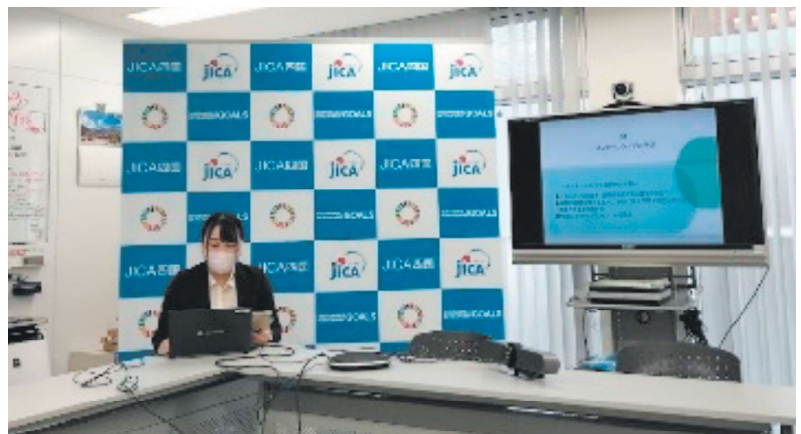


- ・日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修「起業とイノベーション・エコシステム形成」 4名  
2022年5月10日～2022年12月16日 創造工学部
- ・課題別研修「文化資源を活用した地方観光開発」 15名（オンライン）  
2022年8月22日～2022年9月9日 経済学部
- ・長期研修員（留学生）「食糧安全保障のための農学ネットワーク」 1名  
2021年9月～2023年9月 農学部

### JICA四国でのインターンシッププログラムへの参加について

2022年度の夏休み期間中2週間、JICA四国センターでインターンシッププログラムが実施され、他大学の学生2名とともに法学部から1名の学生が参加しました。

本学で実施したJICA研修へのオブザーバー参加、国際協力の関係者との面談やJICAが招へいしている留学生の会議への出席等を実施しました。参加者からは、開発途上国の課題を学ぶとともに、日本の地方が抱える問題、それに対する取り組み等が理解でき、自身の成長につながった、とのコメントがありました。



## 全学共通科目「プロジェクトさめき」における連携

SDGs目標14「海の豊かさを守ろう」に焦点を当て、瀬戸内海の問題について留学生と日本人学生が共修する授業を、第1・第3クォーターに開講しています。

2022年度も、両クォーターとも講義では香川県環境森林部里海グループ、実地研修ではNPO法人アーキペラゴ／一般社団法人かがわガイド協会より講師をお招きし、グループごとの最終発表では原直行インターナショナルオフィス長（副学長、経済学部教授）と長谷川修一特任教授・名誉教授（四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構副機構長、危機管理先端教育研究センター長）に講評をいただきました。

第1クォーターでは、瀬戸内海へのごみ流出を食い止めるべく高松市内春日川の汽水域近くの河岸で、第3クォーターでは、公益財団法人中島記念国際交流財団の助成を受け、本授業としては初めて小豆島の海岸で、実地研修を行いました。拾い集めたごみは、ICC (International Coastal Cleanup) という国際方式に基づいて分類・調査し、その特徴や削減方法について実践的に学びました。

インターナショナルオフィスでは、SDGs14推進に貢献すべく、本授業以外でも外部団体や海外協定大学と連携した各種ビーチクリーンの取り組みを続けています。



第1クォーター 春日川



第3クォーター 小豆島（小瀬）



## サボア・モンブラン大学の教職員研修プログラムに参加

2022年6月20日(月)～6月24日(金)にかけて、本学の海外教育研究交流拠点であるサボア・モンブラン大学(フランス)において、本学教職員3名が教職員研修プログラム「S.M.I.L.E.2022」に参加しました。本研修は、語学研修およびエクスカージョンを通して、異文化交流を行うプログラムです。

### <参加者の声> 教育学部 准教授 神野幸隆

英語クラスに参加しました。毎回、テーマ(「文化とは何か」「コミュニケーションの重要性とそのための能力とは」「モチベーションをあげるには」「同僚との協働」等)に沿ったディスカッションを通じて語学の修得を目指す研修でした。今回世界20か国近くからの参加でしたが、ヨーロッパとアフリカからの参加が主で、アジア地区から唯一の参加が香川大学でした。東洋文化を踏まえた発言はグループ内において貴重な存在であり、会話の促進につながったと感じます。参加者とは今後も相互の大学を訪問する約束をしたので実現したいです。



## <地域との連携・交流>

### 三木高校生インターンシップの受入れ

2022年度は総合学科2年生2名を受け入れてインターンシップを実施中です。8月9日のオリエンテーションに始まり、留学生会館訪問(8月24日)、グローバル・カフェの活動(9月17日)、生協のハラール対応とイスラム理解(10月15日)とインターナショナルオフィスが関わる業務について理解を深めてもらいつつ、メールのやりとり、出張報告書やプレゼン資料の作成など、仕事で欠かせない作業スキルについても学んでいます。



大学生協食堂の仕事やキッチンカー導入について学ぶ

11月16日には農学部のご協力で、4名の外国人学生と対話する機会を得、大変よい刺激を受けたようです。インターンシップは来年3月の成果報告会まで続きます。

## 留学生への支援 食料支援(野菜提供)

有限会社渡辺エンタープライズ様(野菜、果物の卸売業を経営)から、昨年度に引き続き、月に1回のペースで野菜と果物のご寄附をいただいています。

留学生からは、「自炊しているので助かります」と毎回感謝の声寄せられています。



6月17日の様子

---

## SDGs目標14・瀬戸内水中写真展示&トークイベント

香川県環境管理課が掲げる「里海づくり」によって「豊かな海」を目指すという理念を背景に、香川県海域の生き物の写真撮影をしてきました。撮影した映像を一人でも多くの県民と共有する事を目標にしています。2020年から活動を開始して以来、およそ10回、各地で写真展示会とトークイベントを実施しました。今回紹介するのは、11月中旬に10日間に渡って、ユープラザうたづで実施したイベントです。展示した作品数は31点で、期間中、トークイベントを1回実施しました。30名を超える聴衆の前で、四国水族館長、小豆島で海洋ごみ清掃をしているNPOの方と3名で舞台上上がり、SDGs目標14番を共通テーマとして、それぞれの観点から海洋ごみ問題について語りました。





## <留学生の声>

### さぬきプログラム修了生の修了スピーチより

別項で紹介した修了生の修了スピーチより抜粋して紹介します。

#### 王 宣淳 WANG, Hsuan-Chun (台湾)

香川大学のさぬきプログラムを選んだりゆうは、わたしは日本がすきで、先輩がこのプログラムにさんかしていたので、すすめてくれたからです。これから、わたしは後輩にこのプログラムをすすめることができます。(中略)にほんのせいかつはまいにちいそがしかったですが、とても幸せです。この4か月間、私は多くのことをならい、人生の新しい計画も立てました。違う人生を経験する、チャンスをくれましたせんせいたちにほんとうにありがとうございます。



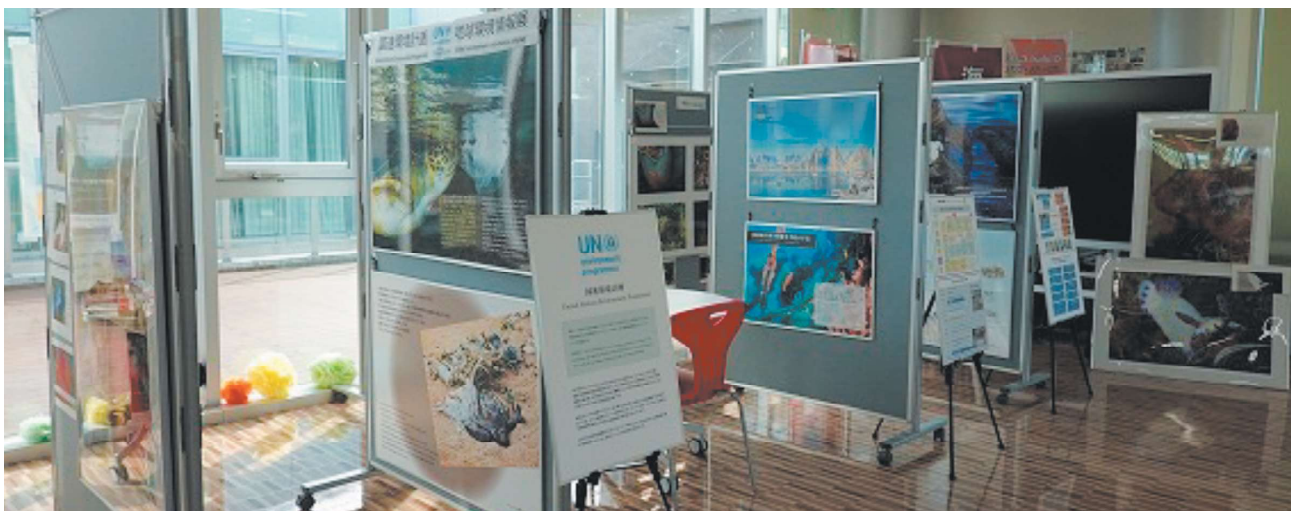
#### SAHAPHAB SANTINURAK (タイ)

初めて日本に来たときから、日本人にとっても感銘を受けた出来事がありました。羽田空港に到着したとき、道に迷って高松行きの飛行機に乗る方法がわからなかったのですが、日本人の誰かが私を助けてくれて、その場所まで連れて行ってくれました。その時、私はとても感動し、何とお礼を言っていたのかわかりませんでした、「Thank you」しか言えませんでした。あの出来事以来、私は日本人と話したいという目標を立てました。このプログラムに参加してから、日本語で返事ができるほどには まだ話すことも聞くこともできませんが、日本語がある程度理解できるようになりました。私を助けてくれて、とても親切にしてくれた日本の友達に感謝したいです。そして、留学生のことを気にかけてくださった先生方、本当にありがとうございました。



## インターナショナルオフィスからのお知らせ

### 四国5国立大学法人協働による「UNEP地球環境情報展」の開催について



本情報展は、2022年9月21日から2023年3月17日までの期間、UNEPが所有する世界各地の貴重な環境情報のパネル(テーマ「海ごみ」「プラスチック汚染」「貧困と環境破壊」「気候変動により激甚化する自然災害」「まちづくり」「教育格差」等)を四国の5国立大学法人で巡回展示します。香川大学の会場は、グローバル・カフェです。

本情報展開催により、これから生きる若者に世界の環境・社会・経済の問題を自分の出来事として捉え、誰一人取り残されないように、これから先、どのような行動をすべきかを探り、発信するきっかけを提供し、四国5国立大学内においてSDGsを浸透させ、SDGs機運を高める効果をもたらすことが期待できます。

## 新任教職員の紹介



(写真左から右へ)

### 滝川 祐子(非常勤教員)

学生のみなさんの国際交流や留学を通して、日本と世界をつなぐサポートができるよう頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

### Benn Johnson(グローバル・カフェ コーディネーター)

Please feel free to call me Benn. I was born in the United States, where I studied Environmental philosophy, feminism, and education. I am happy to be in a place where I can focus on student-centered education and support students as they collaborate with each other and grow as globally minded citizens.

### 松尾 淑子(留学生担当)

学生のみなさん、お気軽に国際課へお立ち寄りください。

### 阿部 純子(国際交流担当)

国際交流に少しでもお役に立てたらと思っています。よろしくお願いいたします。

香川大学  
インターナショナルオフィスニュース  
第27号 2022年(令和4年)12月24日

香川大学インターナショナルオフィス  
〒760-8521 高松市幸町1-1  
Tel : 087-832-1318 Fax : 087-832-1192  
E-mail : kokusai-h@kagawa-u.ac.jp  
URL : <https://www.kagawa-u.ac.jp/kuio/>  
留学生センターfacebook  
URL : <https://www.facebook.com/KUISC>  
グローバル・カフェfacebook  
URL : <https://www.facebook.com/GlobalCafeKagawaUniv>